

日本小児感染症学会若手会員研修会第6回瀬戸内セミナー

ジュニアチューターを経験して

佐藤 晶 論*

Fグループ以外のグループのテーマは細菌感染症に関するものだったことを考えると、多くの若手はウイルス感染症ではなく、細菌感染症に興味を抱いていることを知ることができました。したがって、インフルエンザをグループワークのテーマに選んだFグループにどれだけのモチベーションをもった若手が参加して来るのか、楽しみでもあり、不安でもありました。

私は本セミナーへ参加した経験がなかったため、チューター経験のある当講座の橋本浩一先生やFグループファシリテーターである坂田宏先生からのアドバイスを参考に、最初は参加者の自主性を重んじることに徹して見守りに徹していましたが、なかなか参加者の発言がなく、一人焦っておりました。おそらく、課題の内容が専門的すぎて手を出しづらかったのではないかと、反省もしました。

セミナー当日は、若手参加者の発言を中心に進行していくつもりで臨みましたが、やはり、最終

日に発表することが第一の目標でもあったため、「提案する」のではなく「誘導する」形になってしまったのではないかと思います。また、論文作成についても、9月末までという短い期間であったため、若手が書いた原稿をじっくり修正・推敲する時間がなく、「論文執筆経験が浅い若手の教育」という本来の目的からは少し脱線してしまった感が否めなかったことも反省するところですし、今後の課題ではないかと思いました。

細菌感染症について、最近ではセミナーなどで若手が積極的に勉強する機会が増えており、卒後5、6年目以降の若手小児科医の細菌感染症に対する知識の豊富さには脱帽するほかありません。しかし、一般の臨床では圧倒的にウイルス感染症をみる機会が多いことを考えたとき、今後はウイルス感染症にも興味をもっていただけるチャンスを若手に提案できれば、これからの小児感染症を専門とする人材の教育に幅が広がるのではないかと思います。

* * *

* 福島県立医科大学小児科学講座